TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名： 報道特集	放送日： 2018 年 4 月 21 日

出演者：日下部正樹、膳場貴子、金平茂紀

検証テーマ： 南北首脳会談、ロシアトゥデイ、G20、桜を見る会、安倍外交

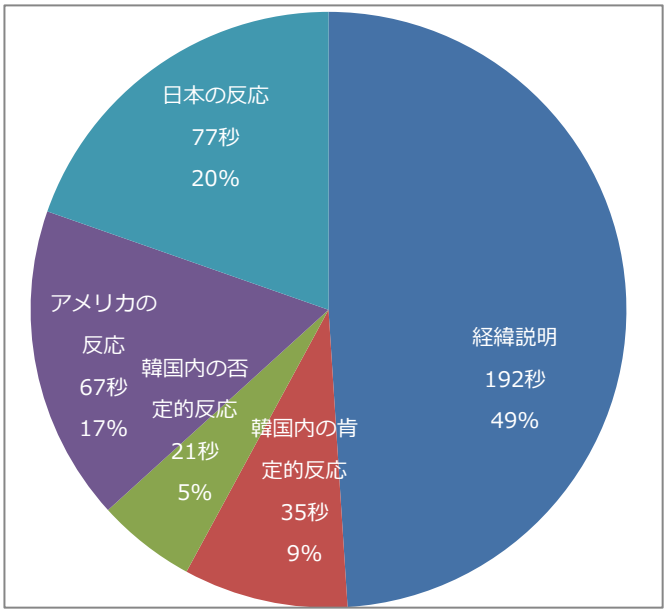
報道トピック一覧

・南北首脳会談
・あおり運転
・ロシアトゥデイ
・G20
・桜を見る会
・27 地点で「真夏日」
・通り魔事件
・安倍外交
・北海道東部沖の巨大地震
・スポーツ情報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・南北首脳会談：結論→特になし

南北首脳会談や米朝首脳会談を前にして、北朝鮮の平壌で昨日開かれた朝鮮労働党中央委員会総会で金正恩党委員長の報告では 21 日から核実験や ICBM の発射実験を中止すると共に、豊渓里の核実験場を廃棄すると明言されたことが報じられた。また、経緯の説明の他に、北朝鮮の動きに対する韓国国内の肯定的および否定的反応、アメリカ政府の反応、日本政府の反応が取り上げられた。このトピックについて当てられた時間は 392 秒で、各ポイントの時間配分及び比率は以下の通りである。



韓国内の否定的反応としては、反北朝鮮の保守団体は北朝鮮の偽りの平和攻勢に騙されるなという訴えが取り上げられていた。

アメリカの反応では大きな進展だとツイートして手放しで評価した一方でホワイトハウスや国務省は大統領の

ツイートの通りとだけコメントしたことが伝えられ、こうしたアメリカ政府の反応について「首脳会談の方針が決まった 3 月以降慎重なトーンは影を潜めていて、今回もトランプ氏の歓迎に政府一丸で追従する姿勢が鮮明」と評していた。

日本政府の反応では安倍総理「この北朝鮮の発信については前向きな動きと歓迎したいと思います。ただ大切なことはこの動きが核大量破壊兵器のそしてミサイルの完全、検証可能、不可逆的な廃棄に繋がっていくかどうかです。 それをしっかりと注視していきたいと思います。」というコメントと麻生財務大臣の「この国とこれまで数々約束しましたよね。金も払った。ねぇ。実験場とかそういうのをやめるという条件で、しかしそういうことが続いた。口だけの話は何とも言えませんな。」というコメントが取り上げられた他、「安倍総理はまた北朝鮮に対する取り組みについて既に日米首脳会談で打ち合わせは終わったとして、基本方針に従って日米、日米韓で対応していきたいと述べました。」ということが伝えられた。

韓国国内については肯定的否定的の両方の反応があったが、日米韓の３カ国の受け取り方について取り上げた時間が特段不公平ということはなく、放送法第四条の見地からは特段問題は見られなかった。

・ロシアトゥデイ：結論→特に問題なし

ロシア政府が 100%出資する ニュース専門局ロシアトゥデイについて取り上げられていた。アメリカやフランスからのロシアトゥデイがそれぞれの国の選挙に関与しているという批判やシリア空爆を巡ってロシア政府の意向を受けたプロパガンダを行っているという批判とそれに対するロシアトゥデイの反論が取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は 168 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・G20：結論→特に問題なし

ワシントンで行われていた G20、20 カ国地域の財務相等による会議は、アメリカの内向き政策を念頭に各国が保護主義への懸念を表明し閉幕したこと、議長国アルゼンチンのドゥホブネ財務省は記者会見でほとんどの参加者は内向きの政策が世界経済への最大のリスクと指摘したと述べる一方で、意見対立があり全会一致にはほど遠かったとアメリカが従来の自国優先の姿勢を主張したことを示唆したことが伝えられた。また、麻生財務大臣もアメリカのムニューシン財務長官との会談冒頭で保護主義への懸念を伝えたことと併せて麻生大臣の「いま内向きな形になっていて、流れが出来上がりつつあるように見えるのはよろしくない。大きな影響がアメリカから出ますから」という発言が取り上げられていた。このトピックについて当てられた時間は 66 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題はなかった。

・桜を見る会：結論→問題なし

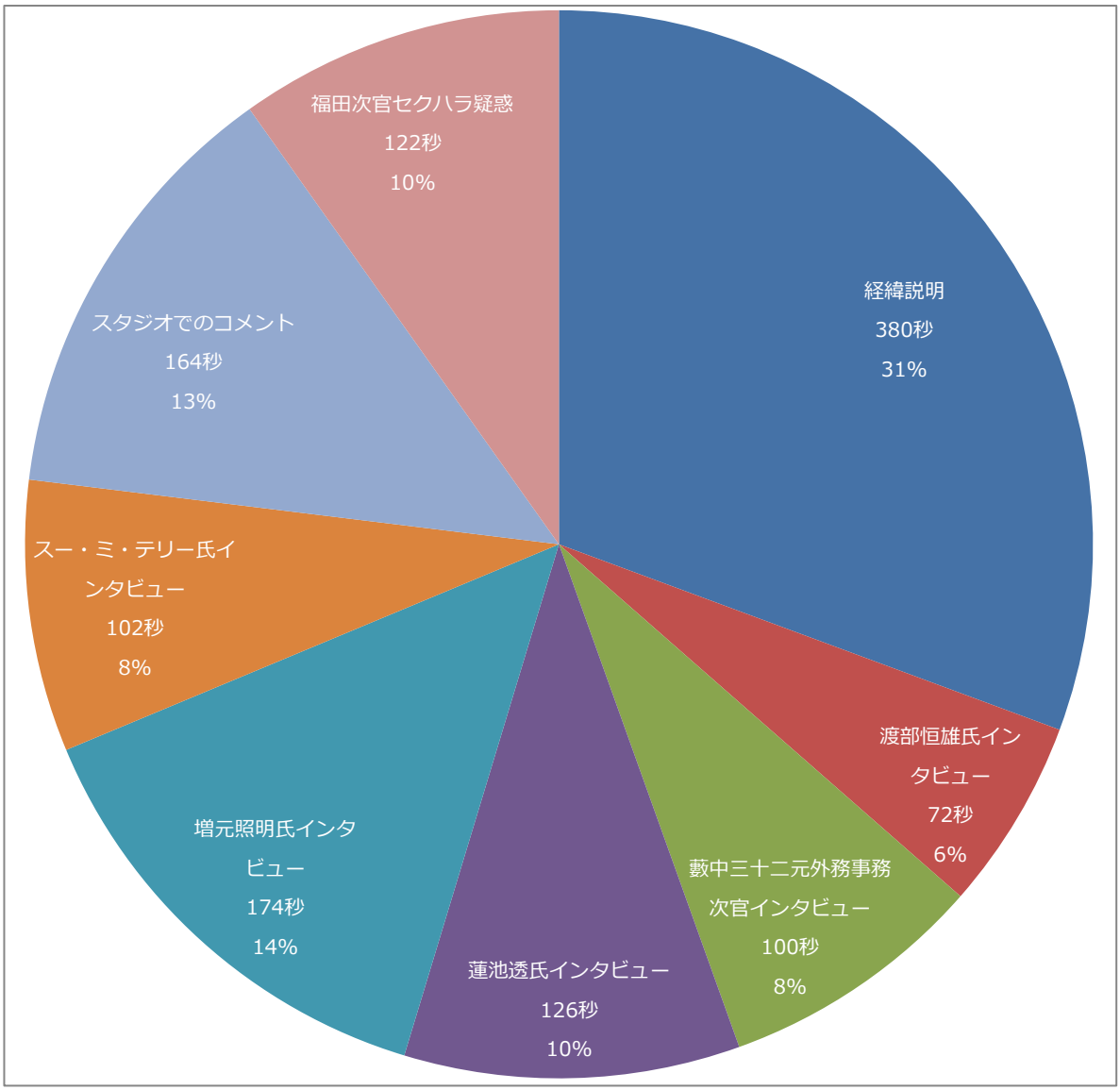
東京の新宿御苑では恒例の総理主催の桜を見る会が開かれ安倍総理が一連の不祥事について改めて謝罪したこと、桜を見る会には将棋の加藤一二三九段や歌手のピコ太郎さんスピードスケートの高木美帆選手など、およそ 17500 人が参加したことについて報じられた。また、桜を見る会での安倍総理の「現在国民の皆様が行政に対する信頼を揺るがす事態となっております。行政の責任者として、その責任を痛感しているところであります。改めておわびを申し上げたいと思います。」という発言が取り上げられていた。

・安倍外交：結論→問題あり

オープニングでは金平キャスターが「私達の同僚であるテレビ朝日の女性記者に対するセクハラで財務省事務次官が辞任しました。辞め方が潔くない上に政権ナンバー2 である麻生財務大臣の言動が火に油を注いでいます。

日米首脳会談に出かける前に安倍首相が述べた言葉を敢えて言います。信なくば立たず。 特集でも考えます。」とコメントし、特集の V TR を流す直前のスタジオでは膳場キャスターが「森友加計問題など様々なスキャンダルが続く安倍政権、新たに財務次官のセクハラという前代未聞の不祥事に揺れています。」、金平キャスターが「政権が苦境に立つ中、安倍総理が得意としてきたという外交も漂流しています。まさに内憂外患です」とコメントして、福田次官のセクハラ疑惑と安倍外交について取り上げられた。

このトピックについて当てられた時間は 1240 秒で、安倍外交についての経緯説明、笹川平和財団上席研究員の渡部恒雄氏へのインタビュー、藪中三十二元外務事務次官へのインタビュー、拉致被害者蓮池薫さんの兄の蓮池透氏へのインタビュー、拉致被害者増元るみ子さんの弟の増元照明氏へのインタビュー、元 CIA 主任分析官のスー・ミ・テリー氏へのインタビュー、スタジオでのコメント、福田次官のセクハラ疑惑問題というポイントが取り上げられた。それぞれのポイントについて時間配分及び比率は以下の通りである。



安倍外交についての経緯説明では今週の首脳会談では貿易問題で意見対立が表面化したこと、日本は TPP への復帰を求めていたがトランプ大統領は安倍総理の目の前で復帰しない考えを示したこと、鉄鋼アルミニウムの輸入制限の対象から日本を外すよう求めたがこれにも応じなかったこと、6 月初旬までに行われる見通しを米朝首脳会談についてトランプ大統領は「成功すると思わなければ米朝首脳会談は行わない。会談で成果が挙げられないと思ったら私達は行くつもりはない。もし会談中に成果が無いと思えば私は途中で帰るつもりだ。そして何

かが起こる。」とコメントしたことが伝えられた。

渡部恒雄氏インタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられた。

金平「米朝についてはですね、非常にトランプさんが前向きというか、どうしても実現するんだみたいなことを言ったようで、これどういう風に見られますか。」

渡部「朝鮮半島の非核化を前提にということで、会うって言った時に普通の大統領だったらばその真意を確かめるために色々なやり取りをしながら、そこから初めて会うか会わないかを決めるんですけども、今回は止めていたんですよね。これ何で飛びついたかっていうのはおそらく FBI に追い詰められてる自分が、ちょっとでもメディアとかの視線を変えたり、あるいはあわよくば、つまり万が一米朝首脳会談がうまくいって核開発が止まってしまったりすれば、11 月の中間選挙までは多分もてはやされますよね。というようなそういう計算がやってるって見るのが自然なんだと思います。 」

藪中三十二元外務事務次官インタビューでは「直感的に今トランプさんが判断してるのは、これで北朝鮮と何らかの合意をすればね、評価されると思ってると思いますね。大きな意味で初めてやると。まさにどの大統領もできなかった会談をやって、しかも一番危ないと言われていた北朝鮮の核についてアメリカ本土はもうこれで安全だと宣言ができたりすればね、それそれで相当の彼としての成果と誇れると思うんですよね。というコメントや、「CIA の基本的には、そんなですね、外交交渉をやる人じゃないんですよね。色々情報集めたりね、いろんな策略はめぐらしてますよ。基本的な外交交渉やるわけではない。今では国務省国防省はがっちり手を組んでやってたのが、ぼーっと CIA で行ってきましたってもう心配ですね。」というコメント、「日米がものすごくがっちり手を組んでね、やってると言ったところでですよ、米朝首脳会談をわっと決めちゃって、発表の直前に電話してきたわけですよね。今度のポンペオさんっていう CIA の長官がトランプさんの密使として行ったと。これもまあ、結局後から聞かされてるわけですよね。そういう心配がある。」というコメントが取り上げられていた。

蓮池透氏インタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

蓮池「わざわざアメリカまで行ってトランプ大統領にお願いするのは、自分たちがお手上げだっていうことの裏返しなわけですよね。それじゃまずいと思うし、拉致問題を取り上げるっていうことをトランプさんがおしゃったっていうのは、まあいいんですけど、取り上げてどういう風にするのか全くわからないんですよ。」

日下部「何か日朝の間である中で、それをアメリカがサポートする。と言うんだったら分かる。つまり 100% トランプさんに頼むよってなってるわけですよね。」

蓮池「トランプさん、ディールって意味では拉致問題を口にするかもしれませんけども、実効的なことはあまりされないんではないか。」

ナレーション「北朝鮮は拉致問題は解決済みとしている。仮に米朝首脳会談でそう主張をされたらどうするのか。それを蓮池さんは心配している。」

蓮池「トランプさんが金委員長から聞いてきた言葉を聞いて安倍さんがそうですかと解決済みですかと。トランプさんが言うんですからしょうがないでしょう、皆さん、幕引きだーと。これが最悪のパターンだと。それは色んな批判があるのでそう簡単にはやらないとは思いますけどね。そういうケースになったらどうするのかっていう、そういうケーススタディをされてるのかなと。」

増元照明氏インタビューでは米朝問題のキーパーソンであるジョン・ボルトン大統領補佐官について以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「拉致被害者、増元るみ子さんの弟、照明さんはボルトン氏と何度も面会したことがある。アメリカを訪れた増本さんはボルトン氏から著書をプレゼントされたという。」

膳場「どういった内容なんでしょう？」

増元「彼の政治信条とか自分のその自分の意思とか、それを書いてある本だとは思います。ただ、全部、これだけの分厚い、英文ですので読んでおりません。ただ、SURRENDER IS NOT AN OPTION　これですべてを表しているのではないかと思います。」

ナレ：本のタイトルは降伏は選択肢にあらず。」

増元「妥協というのは譲るというのは考え方の中に入っていないということでしょう。」

ナレ「増元さんが初めてボルトン氏と会ったのは 2006 年。当時国連大使だったボルトン氏に対し、拉致問題解決のために北朝鮮への制裁強化を要請した。」

膳場「どんな印象でしたか伺いたいんですけれども」

増元「ハードライナーということは聞いていましたので、我々の考え方に近いだろうと思っていた。怖い方だろうなと思ってたんですけれども、会った感じは合った感じは柔和な方でしたけど。一番印象に残ったのは『ミラーイメージ』という言葉。人は普通、鏡に映った自分と同じように鏡に映ったのを自分と同じような考え方をすると思いがちだけれども、北朝鮮はそんな国ではないというか、そんな相手ではないということを、これから国連代表部を回るからその国の人たちに伝えてくれと。北朝鮮は私達が考えているような普通の考え方をする政権ではないと。」

ナレ「ボルトン氏が今回、大統領補佐官に就任したことについて増元さんは」

増元「米朝会談が行われる直前ですから、北朝鮮の政権の本質をよくわかっている方が安全保障省の担当の補佐官についたというのは、非常に良いことではないかと思ってます。」

　スー・ミ・テリー氏インタビューでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「米朝首脳会談に向けて主導的な役割を果たす CIA。その CIA で北朝鮮担当の主任分析官を務めたスー・ミ・テリー氏に展望を聞いた。」

記者「北朝鮮が核を廃棄すると思いますか？」

テリー氏「それは考えられません。北朝鮮は核開発計画を 90%を終えて、アメリカ本土を攻撃する弾道ミサイルと核弾頭を何十年もかけて完成させようとしています。今、突然手放すなんてありえません。 通常外交では交渉がまとまってから大統領レベルが会談します。でも今回は機が熟さぬまま大統領が会うのです。交渉が決裂したら何が起きるのでしょうか。トランプ大統領は軍事的選択肢を取る必要があると考えるでしょう。私はそれが心配でなりません。 」

記者「首脳会談が軍事攻撃の理由に使われる？」

テリー氏「トランプ大統領はこう言うでしょう。外交努力はしたがうまくいかなかった。制裁もダメ。他に何があるのか。唯一残された選択肢は軍事攻撃しかないって言うでしょう。 」

　一連の VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

膳場「安倍首相とトランプ大統領蜜月関係だとねアピールしていましたので、今回の首脳会談でもどんな成果が出るのか注目していたんですけれども、例えば経済面ではの鉄鋼アルミニウムの輸入制限を日本は外してもらえていない。EU とか他の同盟国はすでに除外されているのか果たしてこれが蜜月関係って言えるのか、それを信じていいのかというかんじだったんですけど、拉致問題はそういうことないことを期待するんですがどうでしょうかね。」

日下部「少なくとも拉致問題というものがですね、金正恩委員長の耳に直接入る。これ以上に大切なことだと思いますね。ただこの問題っていうのはあくまで二国間の問題ですから。最終的には日本が主導的に動く必要があると思いますけど。」

金平「日米首脳会談に関係なくですね。アメリカは今ものすごく目まぐるしく動いているんですね。ついさきほ

どなんですけどアメリカの情報筋から入手した情報でちょっとお伝えしますと、CIA のポンペオ長官が極秘に平壌入りして、金正恩委員長と会ったのはアメリカ時間の 4 月 1 日、日本時間の 4 月 2 日の朝だそうです。で随員 6 名を伴って、韓国のウォサン空軍基地から入ったということなんですね。そのための準備交渉がヨーロッパがある国 3 月 12 日に行われたと。で開催候補地なんですけど次の五か所だというんです。スウェーデン、スイス、モンゴルのウランバートル、シンガポール、北京だということです。最もホットな情報というのは、昨日アメリカの CIA のジーナハスペル副長官が北朝鮮の平壌に入ってたということで、米朝首脳会談を巡って協議を行ったと、これらの情報が事前に日本に伝えられていないようで全く蚊帳の外に置かれていたということで、これで果たして外交を担っていけるんだろうかと思っているんですけどね。 」

VTR 自体については放送法第四条の見地から特に問題と言える箇所は見当たらなかったが、VTR を流す前のスタジオでのコメントは明らかに安倍政権の外交について批判的な姿勢であり、これが視聴者に対して予断を与えてしまうおそれは大きい。そうした点を考慮すると放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」には反していると言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・安倍外交：結論→問題あり

スタジオでは金平キャスターが「政権ナンバー2 である麻生財務大臣の言動が火に油を注いでいます。」とコメントしていたが、実際の VTR では火に油を注いだとされる麻生財務大臣の言動はまったく取り上げられていなかった。言動が火に油を注いでいる、というのであれば、その当の言動を示す必要はあるだろうし、そうすることなく単に「言動が火に油を注いでいる」というだけであれば、それは事実から離れて特定の印象を与えるおそれがある。

検証者所感

・安倍外交

VTR 自体はそれほどおかしなものではなかったが、やはりオープニングや特集前でのスタジオでの金平キャスターのコメントが、視聴者に対して特定の意見に誘導しようという意図を感じるものである。